

朝霞市下水道事業経営戦略（案）に関する市民コメント実施結果

1 結果概要

(1) 目的	経営環境の変化に適切に対応し、効果的な施設の維持保全、長寿命化のための改築等を行うに当たり、今後１０年で実施すべき事業と財源の見通しを均衡させ、経営の安定化を図るため経営戦略を策定します。 このたび、「朝霞市下水道事業経営戦略(案)」がまとまりましたので、皆さまから広く御意見を募集します。
(2) 募集期間	令和６年１０月１日（火）から１０月３１日（木）まで
(3) 意見提出の対象者	市内在住・在勤・在学の方、市内に事務所・事業所を有する個人及び法人、朝霞市下水道事業経営戦略に利害関係を有する方
(4) 公表資料	朝霞市下水道事業経営戦略（案）、朝霞市下水道事業経営戦略＜概要版＞
(5) 意見提出者・意見数	３者、９件

2 提出された意見等

提出された意見及び意見に対する市の考えは、次ページ以降に掲載しています。

番号	意見等	市の考え・対応等	修正有無
1	【点検の優先順位】 昨今、急な地盤崩壊で道路が陥没したところに車が突っ込んでしまったりと不安事案が気になります。 原因は地下道路・トンネル等様々ですが、上下水道においても漏水により地盤が軟弱化して同事象が発生するリスクもあるならば、単純に建設年度（敷設年度）ではなく、生活道路（人通りの多い）、学生が多く通る通学路、公園周辺（保育園児等が利用）、バス路線中心に優先順位を上げて点検をしていただきたいです。	本市の下水道事業は、限られた財源や人員の中で、老朽化した下水道施設の点検・調査、修繕・改築を計画的かつ効率的に行うための計画として、下水道ストックマネジメント計画を策定し、これに基づいて維持管理を進めております。 ストックマネジメント計画では、市内の下水道管のうち、幹線や緊急輸送路の下に埋設されているもの、災害時の緊急避難場所に接続しているものなどを重要な下水道管として設定し、敷設からの年数に基づく被害の発生確率や、被害が発生した際の影響の大きさなどに応じて優先順位をつけ、計画的に点検や調査を行っております。	無
2	【修繕着手の優先順位】 先日の東京都区内での大雨（雨水・汚水合流式）時の下水マンホールからの逆流、武蔵小杉でのタワーマンションでの汚水逆流のように、朝霞市の場合は分流式（雨水、汚水）ではありますが污水管が逆流・漏水した場合は一帯が不衛生な状況になり感染症が蔓延するリスクがある為、污水管の修繕を優先すると共に、雨水管であっても集合箇所がボトルネックで滞留しそうな箇所の修繕も優先度を上げて頂く必要があるのかなと思います。	ストックマネジメント計画では、公衆衛生環境の悪化などによる日常生活への影響の観点から、まずは重要な污水管の調査を優先して実施することとしており、その後、雨水管の調査に着手する予定となっております。	無
3	【修繕・改築方法】 行政の方や施工事業者さまの方が詳しく、既にさまざまな案を練っているのだと思いますが、単純更改（道路を掘削して管路を撤去・新設）するより、既設管路を活用（既設管路にインナーパイプを通して敷設することで開削せずに済むので土木工事費の抑制）したりと少しでも品質を維持したまま更改コストを押さえる工法や仕組みを採用して欲しいと思います。場合によってはコンサルも必要になるのかなと思います。	老朽化した下水道管の更新を行う際は、劣化具合に応じて区間全体の更新が必要なのか、部分修繕で対応が可能なのかといった点や経済性や効率性といった観点から実施可能な工法を選択しております。また、必要に応じてコンサルタントに委託を行い、作業内容の検討を行っております。	無

4	更改を後回しにすることなく優先順位化・工夫（着手順位・方式・工法）して下水設備更改・長寿命化を進める中で、それでも足りない場合は値上げはやむを得ない認識です。 もし値上げするのであれば、下水管の長期修繕計画を示し（コスト抑制案で松竹梅的な工夫等も盛り込んだ上で）赤字の度合いを見せることで、朝霞市民も納得するしかないのかなと思います。	支出削減の取組として、下水道ストックマネジメント計画に基づき、施設の適切な維持管理による更新費用の縮減や不明水対策による流域下水道維持管理負担金の縮減等に努めてまいります。また、本市の下水道使用料は、供用を開始した昭和57年から一度も改定を行っておらず、使用料収入で事業費用を賄っていないことから、適正な使用料の水準を検討するとともに、改定を行う際には丁寧な説明を心がけてまいります。	無
5	収支計画より 1. 収入の面から収入額の大きい順に ①下水道使用料②長期前受金戻入③特別利益 雨水処理負担金の収入もありますが最も安定した収入として見込め、対策が可能なのは①下水道使用料だと考えられます。独立採算、利益を上げられるようになりたいとすると使用料の単価を上げること、下水資源で稼げるようになることが考えられます。	下水資源の活用については、既存の資源を最大限活用するとともに、広告収入など下水道使用料以外の収入の増加策について、引き続き、調査・研究を行ってまいりたいと考えております。	無
6	収支計画より 2. 支出の面から支出額の大きい順に ①減価償却費②流域下水道維持管理費③用水管整備費 ①～③の支出について今すぐに効果を出せる対策は残念ながら考え付きませんが、設備の維持・管理に対しての支出が大きいので設備の耐用年数を延ばす、維持にかかる人手を減らす方向を目指すことが長期的には支出を減らすことになると思います。	下水道施設の維持管理は、下水道ストックマネジメント計画に基づいて行っております。引き続き、同計画に基づき老朽化施設の適切な維持管理や長寿命化を図ることにより費用の縮減に努めてまいります。	無
7	（意見）下水道料金は速やかにかつ段階的に、県平均レベルもしくは、一般会計や赤字債権による負担なしに下水道の汚水事業費を賄えるレベルまで、値上げを行うべきと考える。 （理由）汚水は受益者負担、雨水は公費負担の原則から、汚水の事業費は一般会計から組入れるべきではない。公共下水道の整備のされていない地区の市民に対し不公平となる。	本市の下水道使用料は、供用を開始した昭和57年から一度も改定を行っておらず、公営企業として求められる独立採算制による経営を行う上で一般会計からの基準外繰入については抑制する必要があると認識しております。今後も、一層の経費等の削減に努めるとともに適正な使用料水準の検討を行ってまいります。	無

8	（意見）施設の更新は単年度の費用支出／事業規模が大きくならない様に、平準化を図る必要がある。調査のうえ、どの様なスケジュールで今後行うべきかをよく考えて更新計画の立案をお願いしたい。 （理由）今後、作業員の人手不足、工事費の高騰、市職員の業務負担、様々なことを考えると、業務／支出ともに平準化を図る必要がある。	下水道施設については、下水道ストックマネジメント計画に基づき維持管理を行っております。基本方針として、下水道施設の重要性やリスクを評価した上で約120km（污水管約75km、雨水管約45km）の重要路線の設定を行い、第1期から第6期までに分けて調査を行うこととしております。同計画に基づく老朽施設の適切な維持管理や長寿命化を図ることにより、費用の縮減及び業務と費用の平準化に努めてまいります。	無
9	（意見）各戸での雨水の浸透設備の普及や一時的貯留施設の義務化など計画的に取り入れていく必要がある。 （理由）資料の中に、雨水管や雨水施設のことが書かれているが、内水による水害（浸水）対策、市で設置する雨水施設への負担を考えると、その様な活動も市が後押しする計画をしていく必要がある。	雨水貯留浸透施設については、本市の開発手続条例において、500㎡以上の開発事業に対し、浸透施設や貯留施設等の設置を指導しており、雨水の流出抑制を図っております。また、個人の住宅においても新築や建替え時には雨水浸透施設の設置をお願いしているところですが、より効果的な内水浸水対策について、引き続き調査・研究をしてまいります。	無